

事務連絡
令和5年10月1日

各区長様

三木市立総合隣保館長

「隣保館だより」の回覧について(依頼)

仲秋の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、隣保館事業の推進につきまして格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「隣保館だより」の全戸回覧について、お忙しいところお手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

- 1 送付物 隣保館だより 10月号
- 2 送付部数 回覧部数分
- 3 連絡先 三木市志染町吉田823
三木市立総合隣保館
TEL 82-8388 担当：澤田・橘田

2023
10月

三木市人権啓発紙

隣保館だより

テーマ：誰一人取り残さない学び
を保障するために

「隣保館だより」ホームページ（カラー版）
URL=<https://www.city.miki.lg.jp/site/sougourinpokan/>

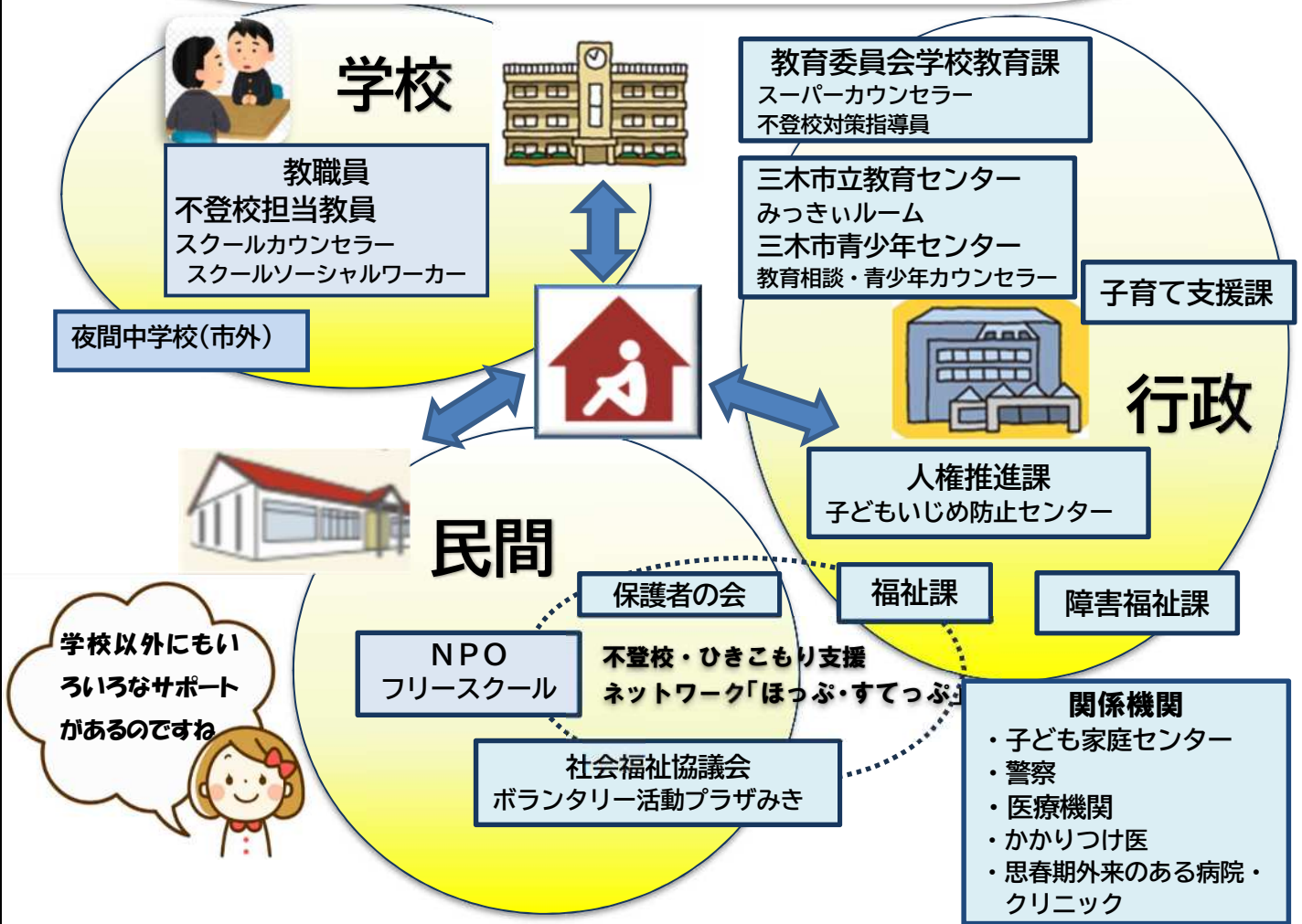


QRコード⇒

発明王、エジソン。日本の植物学の父、牧野富太郎。二人の共通点は？それは、小学校中退だったことです。学校に行かなかった二人ですが、ともに素晴らしい研究成果を挙げました。人それぞれの学び方があるということでしょうか。学校教育も多様な学び方を進めようと現在、様々な改善がなされています。

近年、様々な要因で不登校になった小中高等学校の児童生徒が急増し、大きな社会問題となっています。国は、不登校・ひきこもりをはじめ、十分に教育を受けられない、受けられなかった人たちに、「誰一人取り残されない学び」を社会全体で保障しようと、学びの多様化学校や夜間中学校の設置などの政策を進めています。三木市でも、不登校生やひきこもりの人たちを支援するため、学校、行政、民間の関係機関が連携し、社会的自立をめざした支援や学びの場の提供、相談活動等に取り組んでいます。

三木市の誰一人取り残さない学びの支援体制（イメージ図）



令和5年10月(第258回)

人権の小窓 (1)

不登校という選択

～キラキラと輝くために～

フリースペース S-BASE 代表 清水 ひとみ

私が娘の不登校と向き合った当時は、不登校生への支援目標が「学校復帰」の一択でした。学校に行けないことは恥ずかしいことという思いと、学校に行けないことへの罪悪感を抱え、家に籠る日々。私自身もダメな母親というレッテルを貼られた気持ちになり、前にも後ろにも進めず、ただ立ち尽くしていました。壁を作り、孤独に耐えるしかありませんでした。

その経験を活かし、親のサポート、子どもの居場所となるようにと、フリースペース S-BASE (エス・ベー



ス)を設立し、学校以外の学びの場として、地域と繋がり、不登校の子どもたちでもワクワクするような体験を提供しています。子どもたちは未来を担う大事な地域の財産です。地域の方と繋がり、学ぶ機会を大事にしながら、社会の一部として地域貢献できる機会を提供しています。

多様な生き方・多様な学び

不登校児童生徒数は全国で25万人に迫る勢いで増え続けています。2016年に教育機会確保法が施行され、学校以外の居場所の必要性も認められるようになってきました。このように、不登校ではなく、学び場を選択できる社会、子どもたちの多様な生き方が認められる社会へと変わろうとしています。ですが、現実はまだまだ多様性よりも同調性(協調性)が求

(筆者プロフィール)

S-BASE 代表 清水 ひとみ

メンタル心理カウンセラー

2020年6月フリースペース S-BASE 設立

2023年9月フリースクール S-BASE2号

店設立。親の会「おやBASE」も毎月開催



められ、人と同じであるように選択し、評価される社会です。そんな社会に違和感を覚え、学校に行きづらくなった子どもの多くは、自尊心が低いと感じます。その原因の一つに自己決定の欠如があります。そこで、子どもたちとの関わりで私たちが意識していることは、どんな小さな選択でも自己決定を促し、その選択を評価しないことです。そういった関わりを続けることで、子どもたちは少しずつ自信を取り戻し、自尊感情も向上します。自尊感情が向上すると、自分を頼りに歩き始めるようになるため、生き生きと活動を始めます。

公教育だけでなく、フリースクールやホームスクールなどのような学びの場を自由に選択でき、また、より自分を輝かせ、自分の世界を広げるためにはどのスタイルで学ぶことが一番良いのかを選択できるようになれば、不登校という言葉もなくなると思います。

三木市不登校・ひきこもり支援ネットワーク「ほっぷ・すてっぷ」が目指すもの

三木市不登校・ひきこもり支援ネットワーク「ほっぷ・すてっぷ」は、三木市内の不登校・ひきこもりの支援を行う行政、民間、市民団体が手を取り合って、立場を越えて連携し、全力でサポートをしようと2021年に発足しました。

様々な理由で地域や社会との関わりが難しい方やその家族の勇気のSOSに迅速に応え、一步を踏み出せる伴走者となることを目指しています。

現在、S-BASEは、学校に行きづらいお子様の居場所の提供、親御さんの相談といった役割を担っています。

不登校は引きこもりの入口になることもあります。その入口での関わりで、少しでも人の温かさに触れ、人に頼ることを知り、自分らしく生きることを取り戻せるよう伴走したいと思います。



人権の小窓 (2)

「姫路に夜間中学校が 開校しました」

ひょうご夜間中学をひろげる会
副代表 原田 貞雄



「学校(夜間中学)へ行き始めて、私は、ものごとくに感動して涙がよく出るようになりまし。昔は、辛いことがあっても、泣くまいと、歯を食いしばって生きてきたせいか、ものごとの楽しさも感じませんでした。今は、ものを見ても聞いても、嬉しさも楽しさも、肌で感じるようになりまし。勉強して少し文字が読めるようになると、街の看板も新聞の見出しも、買い物レシートさえも、声を出して読みたくなりました。……」

これは、姫路から神戸の西野分校という夜間中学校に通われた村上玉子さんの作文です。これを読めば、学ぶ事、すなわち教育を受ける権利は基本的人権であることがお分かりいただけると思います。このあと、初めて住所や名前が書けた時の嬉し涙は、甘かったとつづっておられます。感動の作文でした。

兵庫県に限らず、学齢期にいろいろな事情で学校に通えなかった方が大勢おられることが2020年度の国勢調査で分かってきています。このような方々の一人一人の事情に合わせて、義務教育の機

(著者プロフィール)

原田 貞雄 (はらだ さだお)

ひょうご夜間中学をひろげる会・副代表
姫路市教育委員会人権教育課長、学事保健課長を経て小学校長として定年退職。
在職時より、仲間とともに「姫路に夜間中学を」の運動をはじめた。

会を保障すべきとする「義務教育機会確保法」が2016年に施行されて以来、全国に少しずつ夜間中学校が開校されるようになってきました。2023年春に全国41番目の夜間中学校として「姫路市立あかつき中学校」が開校しました。夜間中学校は、年齢、性別、国籍に関わりなく、共に学ぶ場として開校されました。若い人から高齢の方まで、もちろん話す言葉や肌の色にも関わりなく、各人の色々な背景の上にとって共にそれを認め合いながら学ぶ、そこは自己実現の場となっています。

あかつき中学校は、姫路市立の中学校となっていますが、西播磨、東播磨地域のほとんどの各自治体とはすでに連携協定が結ばれており、神戸の2校、尼崎の1校と合わせて条件に合う夜間中学校に通えるようになっています。現在、市外の方も複数名おられ、三木市からの希望もあるようです。入学申し込みの窓口は各市町の教育委員会となっています。

学校は、「JR東姫路駅」から徒歩5分の距離にあります。生徒さん用の駐車場はありませんが、自動車通学も可能なようです。授業は一日4時間で、給食も準備されています。公立中学校ですから、もちろん費用は無料となっています。

学ぶことは、人権を保障する行動そのものですが、実際には「夜間中学に通っています」と近所の方に話せない生徒さんがおられることも事実のようです。基本的人権がすべての人に保障される世の中の実現を進めていきたいものです。





(C) こゆり

隣保館カレンダー

10月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	日		16	月	
2	月		17	火	経営・職業相談 10:00～ 人権フォーラム 18:30～19:45 (総合隣保館)
3	火	経営・職業相談 10:00～	18	水	
4	水		19	木	人権相談 (三木市役所)
5	木		20	金	経営・職業相談 10:00～ 人権フォーラム 18:30～19:45 (吉川町公民館)
6	金	経営・職業相談 10:00～	21	土	
7	土	隣保館視察研修 (長島愛生園 (予定)) きらきら書道 13:30～	22	日	
8	日		23	月	エアロビクス 14:30～15:30
9	月	スポーツの日	24	火	経営・職業相談 10:00～ 人権フォーラム 18:30～19:45 (総合隣保館)
10	火	経営・職業相談 10:00～	25	水	
11	水		26	木	手芸サークル 13:30～
12	木	手芸サークル 13:30～ 人権相談 (吉川支所)	27	金	経営・職業相談 10:00～
13	金	経営・職業相談 10:00～ 人権相談 (緑が丘町公民館)	28	土	茶道教室 13:00～
14	土	茶道教室 13:00～	29	日	
15	日		30	月	
			31	火	経営・職業相談 10:00～

人権フォーラム開催

時刻 18:30～19:45

17日 (火) 三木市立総合隣保館

- ①色覚異常はおもしろい(作文朗読)
竹下 征吾さん(平田小5年)
- ②絆カフェ「カリヨン」の活動を通して
木村 優海さん、吉留 翼さん、橋爪 愛翔さん
(関西国際大学保健医療学部)
- ③みんなで行きたい「スマイル学級」
永裕 郷子さん(吉川小主幹教諭)
- ④どんな私でも大丈夫
寺尾 直美さん(なほみ助産院 院長)

20日 (金) 吉川町公民館

- ①二歳の妹に教えてもらったこと(作文朗読)
三宅 和音さん(三木中3年)
- ②子どもも大人も幸せであるために
藤本 恵美さん(別所認定こども園長)
- ③子ども達から教わった「思い」への尊重
猶原 恵理さん
- ④息子との出逢いと別れ
大西 秀樹さん(三木市議会議員)

24日 (火) 三木市立総合隣保館

- ①すぐ行動(作文朗読)
前田 采音さん(別所小4年)
- ②このごろ思うこと
浦 佑里佳さん
- ③私が日本社会から受け取ったものが返していくもの
バレンスエラ エドさん(三木市国際交流協会会員)
- ④不登校の子供たちが教えてくれたこと
清水 ひとみさん(S-BASE代表)

皆様の参加をお待ちしています

人権教育指導員研修会で

映画DVD「破戒」を鑑賞しました

去る8月31日、島崎藤村原作「破戒」の映画、DVDビデオを指導員20名で視聴しました。人気俳優間宮祥太郎が演ずるのは、自らの出自に苦悩する主人公丑松。子どもたちと丑松との別れを描くラストシーンに心を揺さぶられました。



〈視聴した指導員の感想(抜粋)〉

- 「差別は人の心から簡単に消えない」「弱いから差別する」「耐えるしかない」など、考えさせるセリフが多かった。
- 大感動でした。一人の勇気ある行動・言動が波動し、血脈として次世代へ受け継がれることを希望します。また、その一人になっていきたいと思いました。人は部落、生まれによってではなく、振る舞い、行動によって真価が問われるものだと思います。

◎ 映画DVD「破戒」(上映時間 119分)は、三同教のビデオライブラリーに所蔵。学校や団体の人権研修用教材として総合隣保館で貸し出しをしています。ぜひご活用ください。

人権啓発紙「隣保館だより」10月号 (毎月1日発行)

令和5年10月1日発行 三木市市民生活部人権推進課 編集

〒673-0501 三木市志染町吉田823 三木市立総合隣保館

TEL 82-8388 FAX 82-8658 E-mail:jinken@city.miki.lg.jp